

血管障害患者の血流障害の程度および手術効果を判定する上で、今後さらに重要な検査法のひとつになりうるものと考えられる。

4. Prolactin-Radioimmunoassay kit の基礎的検討および臨床応用について

山藤 靖展 二宮 哲博
石飛 和幸 原田 義道
(鳥取大・3内)

CIS 社製の Pr RIA キットの基礎的検討およびその臨床応用について検討した。first incubation time の至適時間はほぼ 42 時間にあり、second incubation time はほぼ 3 時間にあった。incubation temperature は 4°C が 20°C より良好であった、crossreaction は TSH, GH, FSH, LH, ACTH とともに交叉反応を示さなかった。24歳の女性で分娩後 48 時間目の血清の dilution curve は standard curve と良好な平行性を認めた。本 assay system の inter-assay variance は平均、9.8%, inter-assay variance は平均 12.5% であった。臨床例では TRH 500 μ g 負荷後の血中 Pr 値は健常女子が健常男子に比して高値を示した。甲状腺機能低下症は過剰反応を呈したが、治療による euthyroid state では正常反応を示し Basedow 病では低反応であった。Turner 症候群でほぼ正常反応を、Anorexia Nervosa では 1 例は低反応であるも他は遅延反応を呈した。視交叉部の色素嫌性腺腫 1 例では過剰反応を、同部の異所性松果体腫の 1 例は正常反応を呈し、下垂体疾患 4 例では正常もしくは低反応を呈した。

5. ヒト LH の Radioimmunoassay 二種市販 kit の検討

大藤 信子 高原 二郎
大藤 真
(岡山大・3内)

現在ヒト血漿 LHRIA に広く用いられている LH kit「第一」と LHK (CIS) について検討を行った。測定はいずれも二抗体法によるが「第一」は第二抗体注入及び B-F 分離操作がより簡便であり、(CIS) は全過程の所要時間がより短時間である。LH kit「第一」: 標準曲線は 1.95~500 mIU/ml の間で良好であり、高 LH 濃度血漿の稀釈曲線もよく標準曲線に平行した。accuracy は C.V. 14%以下, recovery 85%以上, 中等度 LH 濃度までの assay 内 precision 及び assay 間 precision はそれぞれ C.V. 10%以下, 15%以下と満足すべき結果を得た。この kit で測定した正常人の血漿 LH 値は、男子 8.7 ± 2.0 , 女子卵胞期 15.7 ± 9.7 , 排卵前期 166.5 ± 110.0 , 黄体期 8.7 ± 4.0 , 閉経期 211.1 ± 86.2 mIU/ml であった。LHK (CIS): 標準曲線は 0.5~50 ng/ml の間で良好であり高 LH 濃度血漿の稀釈曲線はこれによく平行した。accuracy, recovery は中等 LH 濃度以上ではそれぞれ C.V. 13.5% 以下, 70% 以上と良好であったが、低濃度部分にはともに難点があった。しかし assay 間 precision は低濃度血漿においても 10% 以下と良好であった。2回の assay 間には回帰直線 $Y = 1.06X + 0.18$ ($r = 0.99$) を得、よく相関した。LH kit「第一」と LHK (CIS) との測定値の相関は回帰直線 Y (ng/ml) $= 0.08X$ (mIU/ml) $+ 0.006$, 相関係数 0.97 と良好であった。